

普及活動情勢報告（令和5年6月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

極早生品種の枝豆の出来具合は？

～JA四万十枝豆研究会現地検討会～



現地検討会の様子

6月14日、枝豆栽培の雨よけハウスで現地検討会が開催され、関係者を合わせて10名の参加がありました。

普及所からは、主力品種と組み合わせでリレー出荷しやすい、極早生品種の生育状況等を説明しました。

さらに、検討は場の園主から朝取れ枝豆の提供があり、参加者でその品種の味を確認しました。

農家からは「初めて見る品種の生育状況や味を知ることができ、参考になった」「来月から出荷予定のため、美味しいものを作りたい」と意欲的な声が聞かれました。

普及所は今後もJAと協力して、研究会の課題解決を支援します。

記帳データを活用して経営改善を進めよう

～ニラ部会員に個別経営分析を実施～



ニラ経営面談の様子

6月19日、20日、21日にJA高知県四万十支所でJA高知県四万十ニラ部会員を対象に経営分析説明会を行い、延べ33名が参加しました。

JA高知県四万十営農経済センターの協力を得て実施しているコンサルティング活動の一環で、出荷データと本人の記帳データ（損益計算書や貸借対照表）等に基づいて作成した経営カルテを使い、普及員とJA職員が収穫量や単価、経費について部会平均と比較分析し、率直な意見交換を行いました。

また、日頃はあまり意識されていないキャッシュフローの解説や、営農や生活面の課題を話し合う中で、家計簿の確認を行うなど、農家には新たな気づきが見られました。

普及所では、今後もJAと連携し、データに基づいた経営指導により、生産者の経営改善を支援していきます。

地域農業の将来を考えよう！

～地域計画策定に向けた座談会～



地図を見て話し合う様子

6月22日、四万十町東又地区で今年度第1回目の地域計画策定に向けた座談会が開催され、地元農家と関係者26名が参加しました。

町から地域計画策定の目的や座談会の進め方について説明した後、普及所から座談会の中で見えてきた課題解決に向けた、地域での継続した話し合いの重要性を提案しました。

座談会は2つのグループで行われ、農地地図を見ながら、5年後・10年後の担い手の有無や耕作継続の見込み、鳥獣や用排水施設の老朽化対策など、幅広い意見交換が行われました。

四万十町窪川地域では年度内に30か所を超える地区で座談会を計画しており、普及所も関係機関と協力して地域計画策定を支援します。



昔野菜の種取り

6月22日、昭和小学校の3年生と4年生の合計15名を対象とした十和地区に伝わる昔野菜の種取り体験授業を開催しました。

四万十町十和地区には、昔野菜と呼ばれる地元で大切に継承されてきたダイコン、カブ、高菜があります。これらを若い世代に受け継いでもらうきっかけとなるよう、地元の生産者や地域おこし協力隊とともに体験型の食育を年間5回実施しています。

今回は第1回目で、児童たちは昔野菜を地元で作り続けていく意義を熱心に学び、手箕（てみ）を使った種と殻を分ける作業は特に楽しそうに挑戦していました。年明けには、児童自らが栽培した昔野菜を調理・試食し、青果の販売もする計画です。

普及所は、地域に伝わる野菜の継承活動を支援していきます。